

令和5年8月28日

四日市港長期構想検討委員会 第1回委員会 議事概要

日時: 令和5年8月28日(月) 15:00~17:00

場所: 四日市港ポートビル 2階 大会議室

【委員①】

- 四日市地区は賑わいと交流の場ということになっているが、現実に倉庫や上屋がまだ営業中で、雇用がありビジネスがあり、港湾インフラとして重要な機能を果たしている。
- 賑わい自体には反対するわけではないが、物流と観光の共生を図るような方向で議論をお願いしたい。

【委員②】

- 資料3-p18(強み)で道路アクセスの向上を謳っているが、これは事実である。以前は名阪が常に渋滞していたが、今は円滑に通行できる。また令和8年度には東海環状道路も完成して、さらに便利になる。
- 一方で北勢地域と中勢・南勢地域を結ぶ道路が国道23号しかなく、常に渋滞している。現在、北勢バイパスの整備を進めていただいているが、バイパスの完全開通を含め、港から南方面への道路アクセス強化を極力早くお願いしたい。

【委員③】

- 弊社では、2024年問題等を踏まえ、船を物流手段として使う方法をさらに重視している。従来の国内輸送では、300kmを目安に、それ以上のエリアでは基本的に船を活用する考えでやってきたが今後、ドライバーの待遇改善等を勘案し、300km以下にも拡大する検討を進めている。
- また、輸入車についても、今回、鈴鹿の近辺にプレデリバリーセンターを新設し、従来は東京地区で受け入れていた輸入車を、鈴鹿地区に集約する方向で検討しており、四日市港をはじめ中京地区で港をどう活用していくかということが現実問題となっている。
- 四日市港の将来の方向性として、モータープールを拡大していただくことは非常にありがたい。一方で、その活用にあたっては道路アクセスが課題であり、早期解決をお願いしたい。

【委員④】

- 資料3-p19(弱み)で課題は全て網羅されていると思う。
- 長期構想の中では、観点として幾つかあるが、どこに重点を置くのが重要である。
- 足元の課題としては先ほど来の交通の課題があり、道路アクセスの改善は、港の活性化の1つの要素でもあるので、外せない課題だと思う。
- また長期構想の時間軸のイメージを委員ですり合わせて、何年後をイメージしながらどう持っていくかが議論できると、マスタープランも描きやすいと思う。

【委員長】

- 一般論で言えば、長期構想では概ね 30 年先を見据えた港の方向性・ゾーニングを示し、当面 10 年程度の具体的な整備を港湾計画で位置付けていく。港湾計画の時間が経過した後、再度その先の 30 年を見据えた見直しを行い、また港湾計画に位置付けていくという流れ。
- 今は、カーボンニュートラル(CN)等この先の動きがはっきりとは見定められないような問題と、足元のアクセス問題等、短期的な問題と中長期的な問題が混在した議論となっているが、長期構想としては、絵姿として、30 年ぐらい先にはこんなふうに四日市港が使われていくといったものを目指すというところをご議論いただきたい。

【委員⑤】

- 資料 3-p21(将来像)で謳うコンテナ機能の充実はありがたい。
- 資料 2-p13 に示す四日市港のコンテナ航路は東南アジア中心であるが、全て名古屋港にも寄港しており、名古屋港に対する優位性は無い。
- 四日市港の利用優位圏の地域の中でも、航路が無い等で名古屋港を利用している荷主もあり、今後、更なる航路サービスに向けた取組を進めていきたい。

【委員⑥】

- 「みなとまちづくりプラン(基本構想)」を進めており、今現在は、運河で SUP や BAURA の社会実験等を行っている。
- まずは市民の方々に港に関心を持っていただいて、今後、四日市市で進める J R 四日市駅から港への動線整備により、港が市民に親しまれる空間になっていくよう、取組を徐々に進めていきたい。

【委員⑦】

- 力強い、素晴らしい港になることを期待している。
- 千歳運河沿いの開発や、クルーズ船対応等、市民とのかかわりあいの持てる、親しみの持てる四日市港になっていただきたい。

【委員⑧】

- 四日市地区には旧港西防波堤や潮吹き防波堤、末広橋梁等重要な歴史的資産が多く存在している。また、コンビナート夜景も人気があり、夜景クルーズは 8 割以上が県外からの利用。しかしながら、歴史的資産等は市民にはあまり認知されておらず、観光協会としてももう少しうまく PR していきたいと考えている。
- 四日市地区は中心市街地からのアクセスが悪く、人が近づきにくい状況にあり、四日市港への自由なアクセスの実現に期待している。
- BAURA ミーティング等のイベント積み重ね、まずは市民が港に足を運んでもらう取組が重要。

【委員⑨】

- 資料 3-p19(弱み)の課題はよくまとまっている。
- 海岸施設・港湾施設の老朽化についての課題は、地球温暖化により災害も激甚化しているというニュアンスも入れると良い。
- 今後リニアが来ると、いよいよ三重県が表舞台に出てきて、人流・物流が三重県側を通るようになったときに、どう対応するかが非常に重要。その1つが、内航 RORO・フェリー等で四日市と東京を結ぶ発想だと思う。
- 内航 RORO・フェリーの四日市港の優位性としては、大阪湾経由（紀伊半島回り）の海上輸送との比較をアピールした方が良い。大阪まで全て海上輸送するとすれば紀伊半島を迂回しなければならないが、大阪－四日市間を新名神で結ぶことで、地理的に陸上と海上輸送で効率的に運べることになる。
- 今後の話ではあるが、国土交通省港湾局として、港湾管理者が港湾計画を効率的・効果的に策定するための取組を進めており、中部地方整備局としても積極的に取り組んでいきたい。

【委員⑩】

- 強みについては、背後の産業集積を踏まえて、港湾・物流機能の拡充が重要であると考えている。
- コンテナの CN 化を目指す将来動向等を踏まえた、港湾・物流機能の拡充が重要であると考えている。

【委員⑪】

- 今まで市と管理組合で議論してきた観点が全て入っている。
- 国道 23 号の渋滞問題については、災害時には第一次緊急輸送道路と指定されており、その補完の意味でも、霞 4 号幹線の南伸・延伸が必要。
- 都市側からのまちづくりと一体となった港づくりについても、本市の多くの部局に関連することから、各部局との一層の議論を踏まえて、意見があれば申し上げていきたい。

【委員⑫】

- 川越町の地先にある高松海岸は港内に残された自然海岸であり、利用者が多い。
- 近接する道路の建設時にも特段の配慮で保全された。環境学習施設や駐車場スペース等も整備していただいた。
- 最近の利用者が多いことの弊害もあり、県外車両の生活道路への進入が課題となってきており、地元行政としてもしっかりと対応していく必要があると考えている。
- 四日市港の今後の方向性として、自然環境の保全・保持については、引き続き進めていただきたい。

【委員⑬】

- 四日市港の強みは、エネルギー産業の集積とエネルギー拠点だということだと思うが、そ

れに加えて、コンテナ港としての四日市港の強みもある。全国で10番目に取扱量が多い港であるとともに、東南アジア航路が非常に多いことが特徴。中国・韓国に頼りすぎないという意味では、地政学的リスクを考えれば、特にこれから強みになっていく。

- 一方で、RORO・フェリーの航路がないというのは、不思議である。
- 将来の姿として、資料は全てを網羅しているが、将来のイメージが湧いてこない。全てが完全にできるわけではなく、10年後20年度にも強み弱みは存在するので、何を強みとし、どのような姿をイメージするかが重要。
- 10年後20年後にも、今の強みであるエネルギー産業を強みとして生かしていくことは当然であるが、エネルギー産業は転換期にあり、これが弱みになってしまう可能性もある。したがって、その変化にうまく対応していくことが重要で、これは民間企業の問題かもしれないが、行政としてそれをサポートして四日市の産業振興につなげていくことが、四日市港の発展につながると思う。
- 長期構想のなかでは、何に重点を置くか、優先順位を考え、10年後20年度の港のイメージを考えていくことが必要。
- 個人的には、エネルギー拠点に加えて、内航RORO・フェリーの航路誘致により、海上を中心とした国内ネットワークにおける中部地区の中心として四日市港を描くことが良いと考えている。

【委員⑭】

- 弱みとされているものをいかに迅速に解決していくかが重要で、そうでないとせっかくの強みが活かされていかない。弱みの中から、どれをいち早く、どれぐらいのスパンで対応していくのかというイメージが必要と感じた。
- RCEPをはじめ各種のFTA・EPAの枠組みが乱立している状態がこれから多くなっていくとみられ、東南アジアだけでなく、もしかしたら西アジアを含めたアジア地域内の貿易・投資を効果的に進めていくことが重要になってくる。そのためには、サプライチェーンの国際的変化動向をいち早く捉えて、四日市港としてはさらに航路サービスを充実されていくというような、一つ先を読んでいくスタンスが必要と感じた。
- 昨年の改正港湾法の施行により、港湾緑地での民間事業者の柔軟な活用が可能となっており、より魅力的な事業を展開できる民間事業者の参入を図っていくことが重要。一方で、市民の方を置いてきぼりにしてはいけないので、そういった取組の中で、市民の方々が持続的に参画できずような仕組みづくりも必要になる。
- 先日の名古屋港へのサイバーテロ等、新しいリスクに対しての強靱化というような文言も入れた方が良いのではないかと。

【委員⑮】

- 環境社会学の観点からすると、委員からも市民の関与の必要についてご指摘があったが、「市民をはじめ暮らす人の存在」のような文言が十分盛り込まれていない、印象として弱い。防災・安全についても、暮らし続ける人の観点からこの問題を見る必要がある。観光で外からくる人も大事であるが、地域住民あつての港であるという観点が必要。

- 親しまれる港になるには、地元の人が定期的に、自分のものと思って愛着を持って港に接することができるような取り組みを強めていくことが必要。コロナ前に行っていたアマモの再生のように、自分たちの環境を自分たちの手でつくりあげていくというかたちで、自然に人が集まるようなかたちが良い。

【委員⑩】

- 四日市港の太宗を占める貨物であるエネルギー・自動車に関しては CN の影響が大きく、長期構想を1つのシナリオに絞りこむのは難しく、本来は2つか3つのシナリオになると思う。例えば水素・アンモニア等の新燃料に関し、①四日市港で直接荷揚げする場合、②名古屋港で荷揚げして四日市に持ってくる場合、③従来通り化石燃料を使い続ける場合では、港湾に求められる機能・施設も異なってくる。自動車についても、電動化が進めば、現在とはサプライチェーンが大きく変わる可能性もある。それらシナリオをまとめて1つのストーリーにするのは難しいが、長期構想では、最終的には書き方を工夫してまとめ上げる必要がある。
- CN に関しては、水素・アンモニア利用に関する中部圏での今後の状況次第ではあるが、いずれにせよ、名古屋港との連携・棲み分けが必要となる。
- また、CN では、リサイクルの関連で廃棄物の輸入や輸出も始まるか可能性もあり、港の取扱品目も変わっていく可能性がある。
- 四日市港の隠れた強みとして、北陸のほうまで利用優位であることがあげられるが、港周辺の渋滞がひどく（四日市港からのファースト・ワンマイル問題）、足元の課題であるばかりでなく、長期的に四日市港の競争力に結び付いていくので、早急に手を付ける必要があると思う。
- 交通関係では、モーダルシフト対応として、鉄道と自動車と船の結節点を用意しておくことが必要ではないか。例えば、脱炭素燃料をタンクコンテナに入れて鉄道や陸路で内陸に運ぶということも考えられるので、検討の余地があると思う。
- 観光については、産業観光と港の観光をセットにして考えていけば良いのではないか。産業観光は、物の大切さを知るという意味では環境教育にもつながる。四日市地区は、他地域コンビナートと比較して、かつての公害の影響が長引いている印象がある。新しいものに踏み出せるようにするため、港にもっと親しみをもってもらい、産業に親しみを持ってもらうことに取り組んでいくという地道な戦略が必要ではないか。
- 災害については、津波対策も急ぐ必要がある。大災害が起きたときに、企業がどこに拠点を置くかが問題となり、四日市は古いコンビナートなので、災害を契機に産業が流出してしまうことが危惧される。災害に強い環境下でものづくりができるということは非常に重要なこと。

【オブザーバー】

- さまざまな観点から検討されたと思う。今後、ゾーニングの検討や、よりミクロな課題も含めた検討が進められると思うが、本日の議論を踏まえて、近接港湾との関係性や、近畿や北陸まで伸びる背後圏の広がり、東南アジア方面との貨物所用動向などの観点も含め、

中長期的な強み弱みも踏まえつつ、議論を深掘り頂ければと思う。

【四日市港管理組合】

- 委員から中国に依存しないという話があったが、もともと中国発着の貨物量は 1 位だった。最近では 1 位の中の一つ、程度にまで相対的に減少している。
- 委員からご指摘のあったサイバーテロ対策は、抜けていたので追加する。
- 委員からご指摘のあったアマモ(海草)の増殖は、専門家によれば環境的に難しいとのことなので、より環境に適したワカメなどの海藻類の増殖に取り組みたい。そうした取組を、ゆくゆくはブルーカーボンの取組につなげていきたい。
- 委員から鉄道利用のご指摘があったが、現在でも太平洋セメントが石灰石輸送に鉄道を利用している。鉄道との結節点というところも検討していきたい。

【委員長】

- 賑わいについては、四日市地区の賑わいの拠点化の取組を進めるとして、今実際に物流で使っている皆さんがいるということを十分配慮の上、考えていく必要があるとの意見があった。
- 道路について、足元で困っている者が多く喫緊の課題であり、早期に対処できるような方向性を考えるべきとの意見をいただいた。
- 物流については、エネルギーを主に考えつつ、内航 RORO・フェリー等国内ネットワークを重視すべきとの意見があった。
- 暮らす人の観点で、地域の住民といった観点をしっかり視野に入れておく必要があるとの意見があった。
- CN に関しては、色々なシナリオが考えられるとの意見があった。
- これに対しては、シナリオもいくつかの可能性が絞られるのであれば、それに対して柔軟に対応できるような方向性を考えていくことが、長期構想では必要と感じた。

以上